

日 時 令和6年6月14日(金)
 第5校時 13:15～14:00
 対 象 第5学年2組30名
 授 業 者 梨岡 和
 会 場 5年2組 教室

【研究主題】
主体的に学ぶ児童の育成
～学びのユニバーサルデザインの視点による授業改善～

1 単元名 「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう。」

2 単元の目標

- ・ 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。【知識及び技能(2)ア】
- ・ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。【思考力、判断力、表現力等C(1)ア】
- ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。【(2)ーア】	① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。【C(1)ーア】	① 進んで、既習事項を活用しながら文章の要旨を捉え、学習の見通しをもって、筆者の考えに対する自分の考えを発信しようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語編 第5学年及び第6学年に記載されている次のことを扱っている。

[知識及び技能]

(2) ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと

(1) ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、「文章の主張とそれを支える事例を基に要旨を捉える力」である。この力を身に付けさせるために、本単元は、「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう」という学習課題を設定する。今年度は、朝活動の一環である「YOMU よむタイム」を皮切りに、4月から筆者の主張を捉えることやそれを支える事例を捉えることを積み重ねている。また、9月の単元である「新聞を読もう」の学習をきっかけとし、新聞記事の要旨を捉え、自分の考えを発信する活動を計画している。このことを見据え、本単元では、文章を読んで理解したことに対する自分の考えをブログにまとめる活動を行う。

文章の要旨を捉えることは、児童にとって初めての経験である。ブログという文字数制限ある媒体に記述することは、文章の要旨を捉える必然性が生まれるだろう。本単元では、要旨の捉え方をモデル文や既習事項（主張と事例の関係等）を活用し、段階的に指導していく。

ブログで発信することは、不特定多数の人に読んでもらうことである。故に、自分の考えを明確にする必要があり、言葉を精選したり、文章を吟味したりすることが大切である。

本単元においては、ブログでの文章作成、発信は「Teams」内の家庭学習として取り組み、文章の読み取りや要旨を捉えることに重点をおいて指導していく。

(2) 教材観

本教材は、文章は、双括型の文章であり、筆者の主張が書かれている段落を見付けやすい教材であると言える。また、例の論じ方にも「原因と結果」の関係になっている。主張が見付けやすい点や筆者の考えを支える事例の挙げ方に特徴がある点において、要旨を捉えることに適していると考えられる。

また、本教材は、文化や言葉に表れるものの見方やそれに対する筆者の考えが述べられている。これは、文化や生まれ育った環境や生活に起因することを主張している。したがって、児童は、自分の生活体験や経験と筆者の考えを比べながら文章を読むことができると考える。正確に、要旨を捉えた上で、自分の考えをもつ段階で、文章を肯定的に読むと同時に、「この場合においては、どうだろう。」と、自分の生活経験と照らし合わせ、疑問をもって読み進めるなど、文章を多面的に読むきっかけとしていきたい。

<見立てる> 双括型

終わり		中					初め	構成
⑥	⑤	④	③	②		①	段落	
筆者の主張	事例2 世界各地の場合	事例1 国内の場合	あや取りにおける「見立てる」ことの説明		筆者の主張 話題提示		段落の役割 rか	
「見立てる」という行為は、想像力に支えられている。そして、想像力は、自分の育った自然や生活と深く関わっている。	あや取りは世界各地でも行われ、地域によって「かもめ」や「ログハウズ」という名前がつけられている。	日本各地で名前がつけられ、約三十種類にもなる。それぞれの土地の生活と、より関わりの深いものに見立てられた。	これは、その土地の自然や人々の生活のしかたなどによって、結び付けられるものがことなるからである。		あや取りは、ひもが作り出した形に名前がつけられる。これが見立てるということだ。作った形と、その名前でよばれる実在するものとが結びつけられている。		「見立てる」とは、あるものを別のものとして見ることである。たがいに関係ない二つを結び付けるとき、そこには想像力が働いている。	段落の内容
くだ 断定	世界各地で くしかし ↓対比	日本各地で 結果 原因に対する	↓くだ ↓文末表現		例に考えてみよう ↓呼びかけ		着目させたい言葉 文	

<要旨> 「見立てる」とは、あるものを別のものとして見るということである。これは、想像力に支えられ、わたしたちを育ててくれた自然や生活と深く関わっている。(72字)

<言葉の意味が分かること> 双括型

終わり		中										初め	構成
⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	段落	
筆者の主張	事例② 言語による 違い	事例① 母語を学ぶ 場合					「言葉の広がり」について の説明				筆者の主張 話題提示	段落の役割	
新しく言葉が覚えるときには、「点」として考えてしまうが、言葉の意味には、広がりがあり、言葉を適切に使うためには、そのはんいを理解する必要がある。母語でも外国語でも言葉を学んでいくときには、言葉の意味を「面」として理解することが大切になる。	同じことは、母語ではない言語を学ぶときにも起こる。それは、英語と同じような感覚で「食べる」という言葉を使ったことが原因である。さらに、世界中のどの言語についても同様のちがいがある。	小さな子どもは、限られた例をもとに言葉のはんいを自分で考え、使う。そのため、まちがえることがある。					似た場面でも覚えた言葉を、言葉の意味のはんいを広げすぎて使いすぎた。				言葉の意味に広がりがあるということはどういうことなのか。 「実物を見せる」だけでなく、使い方も理解してもらわなくてはならない。 「コップ」の意味には広がりがある。他の似たものを指す言葉との関係で決まってくる。	言葉の意味に広がりがあり、このことを知ること、言葉を学ぶときに役立ったりふだん使っている言葉やものを見直ししたりすることにもつながる。	段落の内容
くだ 断定													

着目させたい言葉・文	しかし なぜなら このことを知っていることは	言葉の意味に広がりがあるとは、どういふことなのでしょうか。↓問い	しかし そう考えると	ここから分かるように つまり。また、	小さな子どもはよくおもしろいまちがいをします。	あるとき↓事例の始まり	よく考えてみると つまり	同じことは	それは↓が原因です ↓理由	さらに このように	私たちが新しく言葉を覚えるときには、 しかし、つまり大切になる のです。
------------	---------------------------	----------------------------------	---------------	-----------------------	-------------------------	-------------	-----------------	-------	------------------	--------------	--

<要旨> 言葉を覚えるときには、言葉が指す意味のはんいを理解する必要がある。言葉を一つの意味である「点」ではなく、複数の意味が含まれる「面」としてとらえることで、ふだん使っている言葉や、ものの見方を見直すことにつながる。(105字)

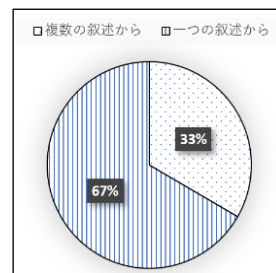
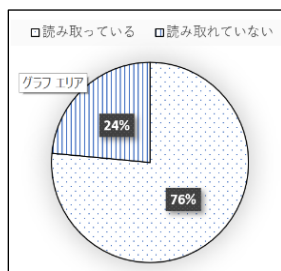
(3) 児童観

本単元は、第5学年に進級してから初めて学習する説明的文章である。児童の実態を把握するため、昨年度の既習した内容で、実態調査を行った。

〈実態調査の結果〉令和6年5月30日実施 調査人数27名

【筆者の主張を読み取る力】

【段落の役割を複数の叙述を踏まえて読み取っている】



実態調査から、児童は主張を読み取ることができる児童が7割を超えている。一方で、段落の役割を要点等、複数の叙述を踏まえ考えられる児童は多いとは言えない。本単元の要旨を捉える活動では、主張を捉えることはできるものの、文章の構成を踏まえることに躓くことが予想される。タブレットの文章制作アプリを用いることで、試行錯誤しながら要旨を捉えられるようにしていく。また、段落の役割については、要点を確認しながら進めることで文章における段落の役割や構成を捉えられるようにする。

5 研究主題に迫るためのオプション

(1) 提示に関するオプション

① 既習事項の掲示[ガイドライン(3.1)(3.2)]

教室内に、既習事項や単元のゴール、学習計画等を掲示しておくことで、児童が「何を学ぶのか」を理解できるようにする。また、既習事項を掲示することで、既習事項を活用して、学習できるようにする。

② 振り返りの共有[ガイドライン(2.2)(3.1)(3.2)]

2時間目以降、授業の導入時に前時の振り返りを共有する。児童の学び方や学習成果を価値付けしながら、教師が共有することで児童が学習のモデルや自らの学びの見通しとなるようにする。

(2) 行動と表出に関するオプション

① モデル文の共有[(4.1)(6.1)(6.4)]

自分のめあてや自分の意見等、文章の書き出しやよりよい文章を書くために、ヒントカードとしてモデル文を提示し、参考にできるようにする。

② 使用教具の自由化[(4.2)(5.1)(5.2)]

要旨を捉えたり、自分の考えを表現したりする際に、ノート、ワークシート、白紙、タブレット等、自分の活用しやすい教具を児童が選択できるようにする。

(3) 取り組みに関するオプション

① 個人のめあての設定[(7.1)(8.1)(9.1)(9.3)]

学級のめあてだけでなく、個人の学びたいことや取組に対するめあてを設定することで児童の学習意欲を維持したり高めたりする。また、児童は学級の活動が早く終わった場合にも自分のめあてに沿った学習につなげるようにする。

② 交流の自由化[(7.2)(8.3)(9.2)]

児童が困ったときや意見を交流したいときに、自由に相手を選び交流できることを促し、自分自身で課題解決できるようにする。また、教師との交流も認め、助言や修正、別の視点の意見を求められるようにする。

6 単元の指導計画と評価計画 (全7時間)

時	学習目標	学習活動 C 児童の反応	主なオプション	評価
短時間学習		1 説明的文章の既習事項の確認をする。 2 題名から想像したことを出し合う。 3 「見立てる」の初発の感想を書く。	交流の自由化(3)-② 使用教具の自由化(2)-②	
1	学習のゴールや学習計画を決めることができる。 文章を読んで、考えたことをブログで発信しよう。	1 初発の感想の共有をする。 2 めあての設定をする。 感想を交流して、学習計画を立てよう。 3 学習課題(ゴール)を設定する。	振り返りの共有(1)-② 個人のめあての設定(3)-① 使用教具の自由化(2)-② 既習事項の掲示(1)-①	
2	文章の構成を捉えて、「見立てる」の要旨を捉えることができる。	1 前時の振り返りの共有をする。 2 めあての設定をする。 段落の役割を考えて、筆者の1番伝えたいことをとらえよう。 3 形式段落を確認する。 4 筆者の1番伝えたいことを探す。	振り返りの共有(1)-② 個人のめあての設定(3)-① 交流の自由化(3)-②	

	る。	<p>5 段落の役割が分かるようにする。 方法: 言葉、図、見出し、番号</p> <p>6 「要旨」という言葉を知る。 要旨のまとめ方 ①主張を探す ②段落の役割を考える ③筆者が最も伝えたい内容を選ぶ ④文字数に合わせて付け足す</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p>	<p>使用教具の自由化(2)-②</p> <p>既習事項の掲示(1)-①</p>	<p>知識及び技能(2)ア 【成果物、観察、記録】</p>
3	文章の要旨から自分の考えをまとめることができる。	<p>1 前時の振り返りの共有をする。</p> <p>2 めあての設定をする。 文章を読んで、自分が考えたことをまとめよう。</p> <p>3 「見立てる」の要旨を確認する。</p> <p>4 文章に対する自分の考えを書く。 ・体験や経験 ・納得 ・疑問 等</p> <p>5 文章を読み合う。</p> <p>6 振り返りをする。</p>	<p>振り返りの共有(1)-②</p> <p>個人のめあての設定(3)-①</p> <p>既習事項の掲示(1)-①</p> <p>交流の自由化(3)-②</p> <p>使用教具の自由化(2)-②</p>	
家庭学習		<p>1 「見立てる」の要旨と文章に対する文章を「Teams」に投稿する。</p> <p>2 「言葉の意味が分かること」の初発の感想を書く。</p>	<p>使用教具の自由化(2)-②</p>	
4 5	「言葉の意味が分かること」の要旨を把握することができる。	<p>1 前時の振り返りの共有をする。</p> <p>2 感想の交流をする。</p> <p>3 めあての設定をする。 「言葉の意味が分かること」の要旨を見付けよう。</p> <p>4 要旨を捉える。 要旨のまとめ方 ①主張を探す ②段落の役割を考える ③筆者が最も伝えたい内容を選ぶ ④文字数に合わせて付け足す</p> <p>5 文字数を選んで、要旨をまとめる。</p> <p>6 要旨を読み合って、要旨を確認し合う。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<p>振り返りの共有(1)-②</p> <p>個人のめあての設定(3)-①</p> <p>既習事項の掲示(1)-①</p> <p>交流の自由化(3)-②</p> <p>使用教具の自由化(2)-②</p>	<p>【思考力、判断力、表現力等 C(1)ア】 【成果物、取組の観察】</p>

6 本 時	筆者の考 えに対する 自分の考 えをもつこ とができ る。	1 前時の振り返りの共有をする。 2 めあての設定をする。 <div data-bbox="427 297 1066 376" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">筆者の考えに対する自分の考えをまとめよう。</div> 3 「言葉の意味が分かること」の要旨を確認する。 4 自分の考えをまとめる。 5 振り返りをする。	振り返りの共有 (1) -② 個人のめあての設定 (3) -① 既習事項の掲示 (1) - ① 交流の自由化 (3) -② 使用教具の自由化 (2) -②	【学びに向かう力、人間性等】 【行動の観察、成果物、発言】
7		1 前時の振り返りの共有をする。 2 めあての設定をする。 <div data-bbox="427 685 1187 763" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文章に対する考えを読み合い、ブログの内容を決めよう。</div> 3 自分の考えを読み合う。 4 発信する内容を決める。 5 振り返りをする。	振り返りの共有 (1) -② 個人のめあての設定 (3) -① 既習事項の掲示 (1) - ① 交流の自由化 (3) -② 使用教具の自由化 (2) -②	

7 前時（4・5／7時）

本時のめあて	「言葉の意味が分かること」の要旨を見付けよう。
本時のゴール	「言葉の意味が分かること」の要旨を把握することができる。

分	学習活動の流れ・指導	予想される児童の多様性	オプション（ ）	評価
導入	1 前時の振り返りの共有をする。 2 感想の交流をする。 3 めあての設定をする。 「言葉の意味が分かること」の要旨を見付けよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習が思い出せない ・交流相手を選べない ・感想を伝えられない ・自分でめあてを設定することが難しい ・めあてを把握することが難しい ・めあてを書くことに時間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの共有（1）-② ・個人のめあての設定（3）-① 	
展開	4 要旨を捉える。 要旨のまとめ方 ①主張を探す ②段落の役割を考える ③筆者が最も伝えたい内容を選ぶ ④文字数に合わせて付け足す 5 文字数を選んで、要旨をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が把握することが難しい ・主張が見付けられない ・複数の主張から選べない ・どのように記録するか分からない ・要点が見付けられない ・段落の関係に気付けない ・双括型の構成の理解が難しい ・「要旨」を理解していない ・見付けたことを友達に伝えることが難しい ・文字数に合わせて、必要な情報を選ぶことが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の掲示（1）-① 【ヒントカード】 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントカード1 →段落構成が記されている ・ヒントカード2 →要点サイドライン ・ヒントカード3 →要旨の穴埋め ・使用教具の自由化（2）-② ・交流の自由化（3）-② 	「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【成果物、取組の観察】

	6 要旨を読み合って、要旨を確認し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「要旨」のみを書きぬいている ・「要旨」ではない箇所を記述している ・言葉を正しく理解しておらず、誤読をする ・交流する児童を選べない ・相手に伝えることが難しい ・自分の「要旨」をよりよくする方法が難しい ・友達の考えた要旨と自分の書いた要旨を比べながら読むことが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等で、書き出しやモデルを共有する。 	
まとめ	7 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を把握できない ・書くことに苦手意識がある ・文章が整わない ・めあてに対して正対していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を可視化 ・書いた児童の内容をモデル化 	

7 本時（6 / 7時）

本時のめあて	筆者の考えに対する自分の考えをもつことができる。
本時のゴール	「言葉の意味が分かること」の要旨を把握することができる。

分	学習活動の流れ・指導	予想される児童の多様性	オプション（ ）	評価
導入	1 前時の振り返りの共有をする。 2 「言葉の意味が分かること」の要旨を確認する。 3 めあての設定をする。 文章に対する自分の考えをまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習が思い出せない ・自分でめあてを設定することが難しい ・めあてを把握することが難しい ・めあてを書くことに時間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの共有（1）-② ・個人のめあての設定（3）-① ・学級全体や友達のめあてをまねすることを許可する 	
展開	4 自分の考えをまとめる。 ※計画によっては、読み合う、助言し合う等の活動を入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・書きたくない ・書き出し方がわからない ・文章の構成がわからない ・意思表示（賛成、反対、疑問等）はできるが、理由がない ・文章に自分の体験や経験の入れ方がわからない ・文章に対して、自分の考えがもてない ・自分の体験や経験と比べて考えをもっている ・考えがあるものの、表出することが難しい ・自分の意見とは反対の意見を想定しながら、自分の考えをまとめている 	既習事項の掲示（1）-① <ul style="list-style-type: none"> ・書き出しを教師と相談する ・教師が書いたモデル文を参考にする。 ・理由を友達と相談しながら、文章にする。 交流の自由化（3）-② <ul style="list-style-type: none"> ・交流の視点を明確にする。 ・アドバイスをもらう場を設定する。 ・時間を自ら設定する。 	「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【成果物、取

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをすぐに書き終えることができる 	使用教具の自由化（２）-② <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット ・音声入力（ボイスメモ） ・ノート ・白紙 	組の観察】
ま と め	5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を把握できない ・書くことに苦手意識がある ・文章が整わない ・めあてに対して正対していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を可視化 ・書いた児童の内容をモデル化 ・ 	